

踏まれ踏まれても生き返る

NO.16

2024.11.30

いたばし雑草通信

編集：発行 木村松夫

090-8646-9757

matsuokimura@gmail.com

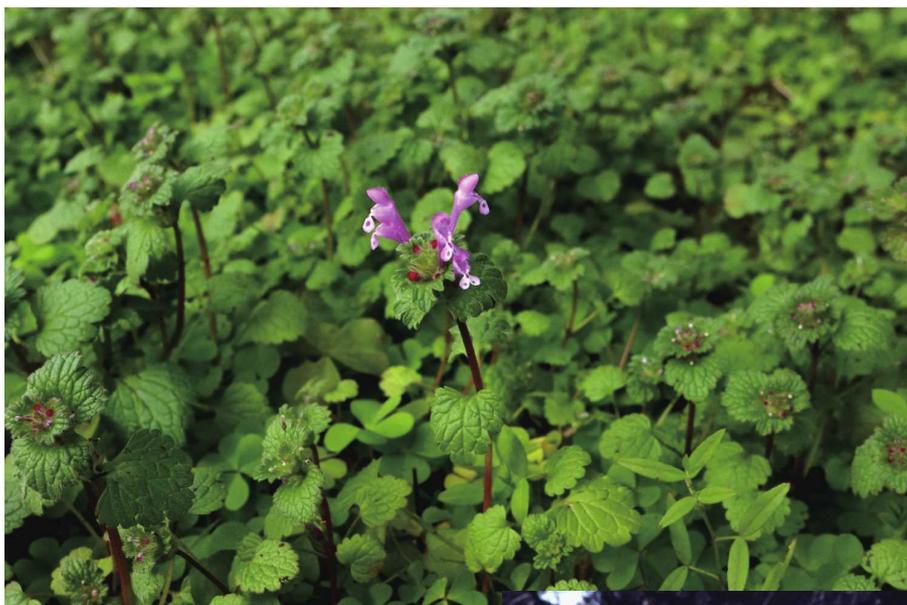
メール発信のみの情報紙です。無料購読希望の方はメールでお申込みください。鮮明画像のPDFでお送りします。

ラニーニャ現象＝厳冬が予想されているのに春の花が咲く

低温の日が2, 3日続いて、いよいよ紅葉・黄葉も本格的になるだろうと思うと、次の日はまた暖かくなって「予定」通りにはいきません。赤塚公園サービスセンターのロビーで展示している「花ごよみ」は「いま観られる植物」の紹介をうたい文句に取り掛かったのですが、自然の成り行きは人間の都合では動きません。暖かければ木々の葉は色付かない、これが現実。仕方がないので「エイ！これまで撮りためた写真でいくしかない」と、今回ばかりは「リアルタイムレポート」をあきらめざるを得ませんでした。

さて、No15（11/3号）では「春の植物の展葉が早い」として、カラスノエンドウ、ヤエムグラ、ホトケノザなどの動きを紹介しましたが、11月の初めのことなので自分でも信じられず、その後、現場を確認に行ったりしていました。現実には、春の植物は展葉どころか開花も始まっています。

ホトケノザやコオニタビラコが咲いてしまっ この後、どうなるのか？



←ホトケノザ

地下鉄高島平駅交差点の日当たりの良い場所で咲き始めました。

春の花の代表的な種ですが、ふつうは2月ごろに花弁が開かない閉鎖花で咲き始めるのに、もう開花。群生している株のほとんどに蕾をもっているの、1株だけ季節違いで開花する特異株ではないようです。同じシソ科のヒメオドリコソウとともに他の場所でも葉を広げています。

コオニタビラコ→

こちらは赤塚公園。紛らわしくて申し訳けないのですが「春の七草」でホトケノザと呼ばれているのがこのコオニタビラコ。「春の七草」ですから早春に咲く野草なのに、今頃に咲いたら「秋の七草」になっちゃありませんか！ 早すぎます。

この10年は「コ」が付かないオニタビラコが目立っていたのに、近年はこちらが優勢になってきているように思えます。



常識が常識でなくなり社会構造崩壊の時代

なまほけ

トランプさんと掛けて

木村の野草観察と解く

その
答は

嘘でも、いい加減でも、確信をもって 主張すれば真実になる！

実は、木村は植物を眺めて愛でて歩くのは大好きなのに、植物の名前を覚えるのが苦手です。人や場所の名前などの固有名詞が頭に入らない「記憶力障害」があって、何度聴いても何回見ても、「●●さんに教えてもらった花」とは言えても、その花の固有名詞は「何だったけ？」と、種名が思い出せないことがたくさんあるのです。

だから、たくさんの方を連れて歩く植物観察会では、「そこに咲いている花がしっかりと生きていることを認めることが必要なことなのであって、正確に種の同定をすることが観察活動ではありません」なんてことを確信をもってしゃべ

るものだから、「木村さん違ってよ」と思っても、みなさん、なんとなく納得させられているというケースがたくさんありました。

それでも、植物観察をはじめとした自然観察活動では対象物が目の前に現に存在しているので、観察した「事実」が間違いであった場合にはそれを認めざるを得ない「真実」として突きつけられます。だから、自分の見解を訂正せざるをえないし、木村は植物観察活動で権威として振舞おうとは思っておらず、必要があれば自分の意見を変えることができるので、この点ではトランプさんよりはるかに罪は軽いです。

民衆の素朴な意識を活用したポピュリズムから 強権的な独裁へ、政治は危険な道に舵を切った

トランプさんの場合は権力を掌握することに執念を持っているのでわけが違います。声高にアメリカの危機を移民のせいにして、民主党を共産主義勢力と決めつけるキャンペーンを繰り返してきました。生活不安が深刻になると、その原因を自分たちより下層にある人々の存在に求める

ムードが高まることはごく普通にありうることですが、このような民衆の素朴な雰囲気を利用したポピュリズムが台頭、民主主義とは異質の強権的独裁政治を是認する世論が国民の多数を占めるようになり、アメリカは南北戦争以来の、それよりも深刻な政治的大分裂国家になりました。

SNSの時代＝これまでの社会規範が崩壊 自分自身で物事を考えられない時代になってきた

1980年代、パソコンとインターネットが普及し始めた時代ではまだ、人々は社会で起こることについて自分自身で物事を考えて行動するしかありませんでした。自然保護や福祉や教育問題で社会の矛盾を肌身に感じたら、その解決のために自分たちの力で「より良い社会」をつくるしかないと一人一人が自主的に直接顔を合わせながら行動してきました。でも、21世紀では違ってきました。

スマホの普及は今ではそれがなければ一人前の社会生活が出来ないほど、暮らしの必需品になってきています。しかし、スマホは確かめられた事実に基づいて論理を尽くした意見をたたかわせるにはとても不向きな道具です。「良い」か「悪い」かの短文で断定的に発せられる言辞での交流・情報発信となり、相手の顔が見えないので「バカ

！」「死ね！」とかの暴力的な感情発露が普通の意味表示言語として飛び交うことになります。

加えて「選挙に出ることは自分の当選を目指すこと」という法律以前の社会規範として誰もが守ってきたことが「やってはダメだと法律に書いてないから」と常識破りの勝手行動が横行し、都知事選で大暴れした人が兵庫県まで飛んで行って立候補。「自分は当選を目指しません」「斎藤さんは悪くない！」と大きな声で主張するのもコントロールできない現実。PR会社の社長が大量に発信したSNS情報と共鳴して、パワハラで失職した知事が大量得票で再当選してしまう「あり得ない」ことが普通に展開してしまう時代になりました。

日本の社会も従来のあり方が根底から崩れてきている、とっても危険な時代に入っています。